

# 風土記の丘の花だより<sup>253</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2024年9月21日)

今年もどうやらナンバンギセルは出てきてくれなさそうです。いろいろな方から種子をいただいて、まくこと5年、いまだに発芽には至っていません。まき方が下手くそなのか、変な気候に邪魔されているのか知りませんが、早くその優美な姿を見たいものです。それはそれとして、まだまだ暑いですが、秋の花が色々咲き出しました。



谷山家住宅の庭や山裾でナンカイギボウシの

薄紫の花が咲いています。漢字で書くと「南海擬宝珠」、暖かい地方に分布するギボウシということです。擬宝珠とは橋の欄干などに付いている、花のつぼみみたいに先が尖ったアレです。葉の形がそれに似ているので、この名前が付いたのでしょう。かつてはユリ科でしたが、今はキジカクシ科とか、クサスギカズラ科となっていて、アスパラガスと同じ仲間としている図鑑もあります。難解ギボウシです。



小さな小さなヒメジソの花が咲き始めました。周りに咲いているキツネノマゴと間違いそうですが、葉や茎の様子などをしっかり見比べてみてください。秋にはいろいろなシソ科の花が咲き、どれもよく似ています。もうすぐヒメジソそっくりのイヌコウジュが咲き始めますから、その時に両者を見比べて、違いが分かると、植物博士になったみたいで嬉しいかもしれませんよ。咲いたらまた、ここで紹介します。

春にハクモクレンやコブシが咲く広場で今、大きなオオオナモミが群生しています。実はトゲトゲのひつつきむしです。ひつつきむしはオオオナモミの実で、中に種子が入っています。写真では、たくさんある丸いのが雄花、その下の少し刺のあるのが雌花です。それが大きくなってひつつきむしになります。オナモミは今ではほとんど見る事ができず、目にするのはほぼこのオオオナモミです。日本の風土にすっかりなじんでいます。熱帯アメリカ原産のキク科の外来植物です。



フェンスや木などに巻き付いたクズがきれいな花を咲かせています。秋の七草の一つとしてよく知られた花です。万葉植物園では目の高さに咲いていますので、観察しやすいです。つるが長く伸び、どこに向かっていくかわからないことから、万葉集にはこんな歌が残されています。「大崎の荒磯(ありそ)の渡り延(は)ふ葛の行方も無くや恋渡りなむ」和歌山県下津の大崎にこの歌碑が立っています。松下

